平成30年度
第15回　東京都高等学校体育連盟
研究大会　紀要

期日　平成31年2月16日(土)
会場　目白大学
主催　東京都高等学校体育連盟
後援　東京都教育委員会
主管　東京都高等学校体育連盟研究部
協力　目白大学
東京都高体連ホームページ
http://www.tokyo-kotairen.gr.jp

Tokyo

平成30年度　第15回　東京都高等学校体育連盟　研究大会

表紙　デザイン協力

東京都立晴海総合高等学校　２年　金本　心菜　さん

大　会　日　程

<<開 会 式>>　　15：00～15：20

1．開会のことば	東京都高等学校体育連盟研究部部長	庄司　一也
2．あいさつ	東京都高等学校体育連盟会長	久保　淳
3．祝辞	東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長	堀川　勝史
祝辞	元東京都高等学校体育連盟会長	山崎　正巳

【講　演】　　15：20～16：20　　質疑応答 10 分

「オリンピックに向けたグローバル人材の育成」

～ 生徒に伝えたいおもてなしの心 ～

筑波大学客員教授
Global　Manner　Springs　代表　　江上　いずみ

<<　休憩　10分　>>

【全国高体連研究大会　報告】　16：40～17：00　　各分科会　5分

＜課題研究＞	田中　康之(都立　立　川　高等学校	サッカー　専門部)
＜競技力向上＞	高倉　千草(都立 第四商業 高等学校	バレーボール女子 専門部)
＜健康と安全＞	塩田　伸隆(都立　松　原　高等学校	空手道　専門部)
＜部活動の活性化＞	奥　正克(都立 小金井北 高等学校	ハンドボール　専門部)

【研究発表】　　17：00～17：55　各発表２５分　質疑応答５分

＜部活動の活性化＞「東京都の発展と強化　～ 国体からオリンピックへ ～」
東京都高体連研究部　　第３分科会　　ボート専門部
都立 日本橋 高等学校　　柳澤　左門

＜課題研究　～ 滋賀大会に向けた取り組み＞
「運動部活動が育むものとは何か　～運動部活動の存在意義についての調査～」
都立 清　瀬 高等学校　　鞠子　智秋

<<閉 会 式>>　　17：55～18：00

1．あいさつ	東京都高等学校体育連盟　理事長	奥秋　將史
＜司会者＞	東京都高等学校体育連盟　副会長	杉渕　明子

目　次

あいさつ　東京都高等学校体育連盟会長　久保　淳　1

大会役員　2

開催要項　3

講　演

「 オリンピックに向けたグローバル人材の育成 」

～ 生徒に伝えたいおもてなしの心 ～

筑波大学客員教授
Global　Manner　Springs　代表　江上　いずみ　5

研究発表

＜部活動の活性化＞「東京都の発展と強化　～ 国体からオリンピックへ ～ 」
東京都高体連研究部　第３分科会　ボート専門部
都立 日本橋 高等学校　柳澤　左門　17

＜課題研究　～ 滋賀大会に向けた取り組み＞
「運動部活動が育むものとは何か　～運動部活動の存在意義についての調査～」
都立 清　瀬 高等学校　鞠子　智秋　20

研究部規約　23

研究部　組織と名簿　24

調査用紙　25

「平成 30 年度　第 53 回全国高等学校体育連盟　研究大会紀要（抜粋）」　27

研究大会に寄せて

東京都高等学校体育連盟
会長　久　保　　淳

平成30年度、第15回東京都高等学校体育連盟研究大会が、研究部を中心に各競技専門部の皆様のご協力と関係者の方々のご支援により開催できますことを心より感謝申し上げます。本連盟は、「競技力向上」と「研究」を両輪と捉えて活動しており、この研究大会は、東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図ることを目的としています。

今年度も「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の３分科会のテーマについて発表が行われます。またこの１月に山梨県で実施された全国高等学校体育連盟研究大会の報告も行われます。これらの研究発表が高等学校教育の一環として体育・スポーツの振興発展に資するものとなりますことを期待しています。

さて、昨年の夏、平成30年度全国高等学校総合体育大会「2018彩る感動東海総体」が、三重県、岐阜県、静岡県、愛知県、東海４県と和歌山県（ヨット）の５県において開催され、各専門部の先生方のご尽力のおかげで成功裏に終了いたしました。東京勢の活躍も素晴らしく、女子バレーボール、女子ハンドボール、男子フェンシングで団体優勝。陸上競技、体操、ソフトテニス、水泳、レスリング、柔道、レスリング、ボクシングで優勝者を出すことができました。その他の競技でも「チーム東京」を合言葉に、選手一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮し、観る人に勇気や感動を与えることができました。これもひとえに各専門部の先生方の熱い情熱や深い愛情によるご指導の賜物と感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックが１年半後に迫ってきました。国立競技場をはじめ各競技施設も急ピッチで工事が進められています。新たな“レガシー”がどのように誕生するのか、我々一人一人の目でしっかりと見て行きたいと思います。またこの機会を通じ、競技力のさらなる向上だけでなく、安全対策や体罰根絶など競技者や指導者の意識向上にも目を向けていくことが大切かと思われます。

昨年度来、「働き方改革」の一環として、中学校・高等学校での部活動が問われており、スポーツ庁からも活動時間、活動日数などガイドラインで具体的に示されています。指導にあたる我々が主旨を理解し、実践していかなければ部活動は変わりません。部活動を存続させる為にも内容、方法を見直していきましょう。

結びに、本研究大会の開催に向けご尽力いただきました研究部を始め関係専門部の皆様や、会場を提供していただいております目白大学を始め、ご支援いただきました多くの関係者の方々に感謝申し上げご挨拶とさせていただきます。

平成30年度 第15回東京都高等学校体育連盟研究大会 役員

会　長	久保　淳				
副会長	畑澤 正一	高橋あゆち	鯨岡 廣隆	平池 徳見	高野 幸代
	杉渕 明子	浅見浩一郎	鴻野　誠		
参　与	奥秋 將史	池戸 成記	森田 正男	佐々木心哉	渡辺 洋司
	桒原信一郎	各専門部部長			
委員長	庄司 一也				
副委員長	塩田 伸隆	中塚 義実			
委　員	黒須 崇仁	堀越 和彦	柳澤 左門	鞠子 智秋	奥　正克
	高倉 千草	征矢 範子	阿部 一臣	工藤 慶之	秋月　隼
	新井 理仁	牧野 飛人	倉田あゆみ	各専門部代表研究部委員	

運　営　役　員

総　務	塩田 伸隆			
総務員	中塚 義実			
渉外・接待	岩立 幸雄	齋藤　香	奥田 浩美	田巻 幸樹
会　場(来客席確保)	工藤 慶之			
会　計	新井 理仁			
紀　要	塩田 伸隆			
(表紙)	都立晴海総合高校			
記　録(写真)	堀越 和彦	工藤 慶之		
記録(録音・テープ起し)	鞠子 智秋			
受　付	新井 理仁	黒須 崇仁	阿部 一臣	堀越 和彦
司会者	杉渕 明子			
発　表	柳澤 左門	鞠子 智秋		
全国高体連研究大会報告	田中 康之	高倉 千草	塩田 伸隆	奥　正克

平成30年度

第15回東京都高等学校体育連盟研究大会

開　催　要　項

1　趣　　旨　東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図るために日ごろの研究、指導の成果を発表するとともに高体連の直面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資する。

2　主　　催　東京都高等学校体育連盟

3　後　　援　東京都教育委員会

4　主　　管　東京都高等学校体育連盟研究部

5　期　　日　平成31年2月16日（土）　15時00分～18時00分

6　会　　場　目白大学　新宿キャンパス　〒161-8539　新宿区中落合　4-31-1
西武新宿線「中井」・都営大江戸線「中井」駅より　徒歩8分

7　参 加 者　東京都高等学校体育連盟加盟校の体育・スポーツ指導者
東京都高等学校の部活動に興味関心を持つ指導者・研究者・学生

8　内　　容　（1）講　演　講師　江上　いずみ　氏
（筑波大学客員教授
Global Manner Springs 代表）
（2）全国高体連研究大会　報告　課題研究・3分科会
（3）研究発表（全体会）　2テーマ
「部活動の活性化」（普　及）　1テーマ　＜　ボート　専門部　＞
「高体連研究部より」　1テーマ

※各発表テーマ・講演内容は、http://www.tokyo-kotairen.gr.jpに掲載します。

9　時　　程　14時30分　受付
15時00分　開会式
15時20分　講演　60分。　質疑応答10分
――休憩　10分――
16時40分　全国研究大会　報告　各分科会・課題研究　各5分
17時00分　発表　各発表は25分　質疑応答　5分
17時55分　閉会式

10　参加申込み
参加申し込みは、所定の用紙に必要事項を記入の上、各専門部で一括して申し込む。
個人の申し込みは、下記申込先に直接連絡する。
申込先　〒156-0045　東京都世田谷区桜上水4－3－5
都立松原高等学校内　塩田 伸隆
TEL　03-3303-5381　FAX 03-3304-3062

申込期限　平成31年1月15日（火）必着

講　演

「オリンピックに向けたグローバル人材の育成」

～生徒たちに伝えたいおもてなしの心～

江 上　いずみ

筑波大学客員教授

Global Manner Springs 代表

《 プロフィール 》

筑波大学附属高等学校を経て慶應義塾大学法学部法律学科卒業。日本航空株式会社(JAL)に入社し客室乗務員として国際線・国内線を乗務。先任客室乗務員昇格後は客室責任者として「お客様１人１人に細かい配慮と心遣いを」という「おもてなしの心」を先任ポリシーに掲げて後進の指導育成にあたり、18,525 時間を乗務。機内アナウンスには定評があり、JAL の機内アナウンスを指導する PA クリニック創設者でもある。1987 年 10 月皇太子殿下・美智子妃殿下特別便(ボストン・ワシントン・ニューヨーク)担当乗務員に選出され同行。帰国後、東宮御所にて殿下・妃殿下に拝謁。

2013年 7月、30年勤務したJALを退社し、同年11月Global Manner Springs設立

2014年4月より筑波大学・大学院にて「グローバルマナー概論」担当講師

2015年4月 筑波大学 客員教授就任

2018年10月 札幌国際大学 客員教授就任（兼務）

大学や公官庁、企業、医療機関、介護施設などで、「グローバルマナーとおもてなしの心」などの講演を手掛ける他、全国の小中高等学校で「おもてなしの心」をテーマに講演中。年間公演数250回に及び、「おもてなし学」の構築に取り組む。

日本おもてなし学会会員(事務局平安女学院大学内)

日本オリンピックアカデミー(JOA)会員

主な著書；「JAL 接客の達人が教える幸せマナーとおもてなしの心」(2015年11月海竜社)

「おもてなし達人が教える“心づかい”の極意」(2016年10月ディスカバー21)

2015年3月17日(火)産経新聞朝刊

「何かをして差し上げる。それが自分の喜びに」

「おもてなし学」を説く筑波大講師

（鴨川一也撮影）

きょうの人　江上（えがみ）いずみさん(53)

おもてなしには、お国柄がある。「西洋は右上位。日本では左上位がマナーです」。縦のものを「Omotenashi」と横にするだけでは、せっかくの心尽くしも届かない。

このほど、スイスのスポーツマネジメント大学院に赴き、「おもてなし学」の特別講義を行った。約40人の聴講生は将来、国際スポーツ界で腕を振るうであろう俊秀たち。箸を使ったゲームや和装の着付けなど、日本文化やお堅いはずのマナーを柔らかく伝え、喝采の中で講義を終えた。

日本航空の客室乗務員として、約1万9千時間を空で過ごした接客の達人。目端の利いた応接と品のある機内アナウンスは、若手の模範とされてきた。

「本当は」と微苦笑交じりに打ち明ける。「女性は三歩下がって―で育ってきたんです」。米国で男性にお酌をし、「NO」とたしなめられたこともある。「マナーに国境あり」の苦い教訓だが、「人に何かをして差し上げる。それが自分の喜びにもなる」の信条こそ「おもてなし」の肝だと信じている。

―昨年秋、2020年東京五輪の開催決定を機に独立した。筑波大講師として週1回の「おもてなし学」を教え、役所や企業、小中学校も飛び回る。1年余りで講義は100回を超え、都内の自宅は、感想文やお礼の手紙が山をなす。

聴講生の一人一人が5年後は日本の顔に―。そんな願いを込め、講義の終わりは名調子で締めくくる。「アテンションプリーズ。当機は2020年東京五輪行きです」。今や「おもてなし」の旗手として、時代の三歩先を行く女性である。

（森田景史）

＜第１章＞

日本の文化「おもてなしの心」

日本の文化「おもてなしの心」

心を以って
行為を成す

表面的では
なく本心で

お持て成し
(お+もてなし)

表なし
(表裏なし)

待遇

歓待

大切な人をお迎えするときの気持ち

相手に喜んでもらうために心を尽くすこと

＜第２章＞

東京大会におけるボランティア構想

～東京2020大会ボランティア応募の実情～

東京2020大会ボランティア応募状況

12月21日締切

応募完了者数
186,101人

男性37%
女性63%

日本国籍63%
外国人37%

2020年7月24日～8月9日　8月25日～9月6日

活動に当たり支給される物品等

2020年5月

「東京2020大会　大会ボランティア」オリジナルデザインのユニフォーム一式
（シャツ、ジャケット、パンツ、キャップ、シューズ、バッグ等。アイテムによっては、複数枚を予定）

活動中の飲食

ボランティア活動向けの保険

活動期間中における滞在先から会場までの交通費相当として一定程度（プリペイドカード1日1,000円分を支給）

※オリエンテーション、研修及び活動期間中における滞在先までの交通費及び宿泊は、自己負担・自己手配となる。
「ボランティアは自分で宿を確保するのが大前提」との立場で、「適切な情報提供を準備する」という説明にとどめている。

東京2020大会ボランティア応募状況

応募者数
36,649人

都立高校2・3年生を
対象に93,000枚を配布
➡都立高校経由は660人

「オリンピックは金曜日から始めて2週間後の日曜日に閉会式」の17日間

交通の混乱を避けるため、2020年限定で祝日を変更

開会式や閉会式の前後は多数の海外要人が訪日・離日する。
その期間に祝日をあてて首都圏の通勤・通学者を減らすことで、渋滞を緩和し、要人の警備に支障が出るのを避ける狙い。

＜第３章＞

第一印象を高める5原則

～生徒たちに伝えたいおもてなしの心～

第一印象を高める5原則

好感のもてる接し方を心掛ける

視覚 3～5秒
（1） 表情
（2） 態度
（3） 身だしなみ

聴覚 10～15秒
（4） 言葉遣い
（5） 挨拶

視覚障害者に向けての「笑顔」

大切なのは・・・ アイコンタクト

表情・態度・身だしなみが大切な理由

100－1＝99 ではない

100－1＝0 になってしまう

さらに印象を良くする挨拶方法

＜第４章＞

国際理解教育と異文化コミュニケーション

国際理解教育としての握手のポイント

1. 握手は右手でする
2. 握手をしながら頭を下げず相手の目を見る
3. 手をさし出すのは上位者・年長者の人から
4. 女性が手を出すまでは男性からは出さない

握手を求めてはいけない人

日本でよく見る両手の握手（あくしゅ）

握手のポイント

グローバルマナーとしてのノックの回数

プロトコール（世界標準マナー）で
定められているノック回数は4回！
大切な場所に入るときには必ず
3回以上しましょう。

2回はNG！！
2回ノックは明らかにトイレノックで、
トイレ以外に用いるのは良くありません

2回；空室を確認するノック

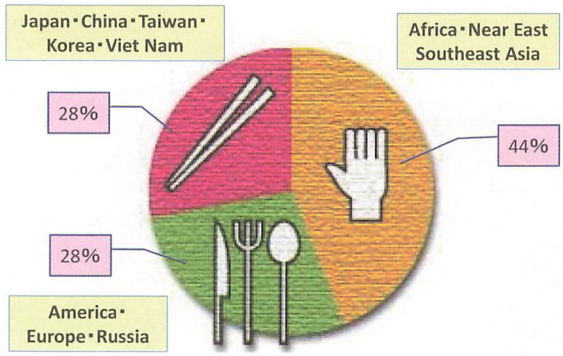
3回；入室を確認するノック

＜第４章＞

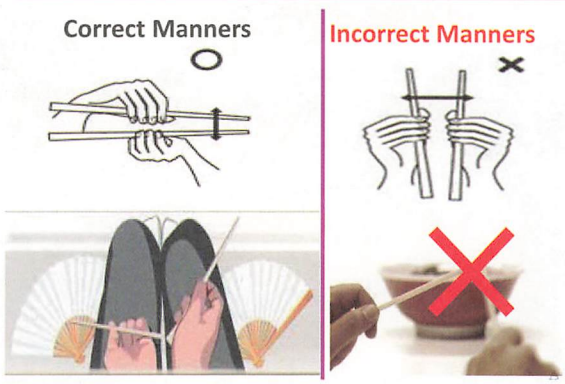
外国人に日本の文化を伝える

～グローバルな人材としての素養～

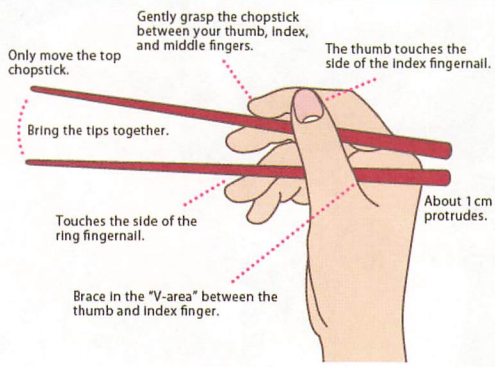
Worldwide Eating Utensils



How to separate a pair of chopsticks



Proper way to use Chopsticks



思いがけない箸のタブー

ついやってしまいがちな「返し箸」もタブー

大皿に盛られた料理を自分の皿に取ろうとするとき、さも相手への心づかいをしています、と言わんばかりに箸をひっくり返して取る人がいます。この箸の持ち手の方を使って取る「返し箸」もマナー違反の一つです。ひっくり返して食べ物に直接触れる部分は、そもそもその人が手で持っていた部分ですから、そちら側を大皿に突っ込むことは不衛生であり、周囲の人への心づかいになっていません。

そんな時は、「直箸でよろしいでしょうか」と断ったうえで取るか、それでも気が引ける場合は店員さんに「取り箸」をお願いするのがマナーになります。

＜第６章＞

おもてなしの心の表し方

ボランティアとしての「気づき」と「言葉がけ」

プラスα（アルファ）の言葉掛け

様々な文化・習慣が集う航空機内

ある人の一番は他の人の一番ではない

＜第７章＞

言葉掛けとおもてなしの心

～「おもてなし大国」日本の真実～

31

依頼を受けたときの返答を考える

32

ボランティアとして授受をするとき

街の店舗において

34

大学・役所などの受付において

35

生徒たちに伝えたい「おもてなしの心」

おもてなし

- 言葉をかけることの大切さ
- おもてなしは相手によって表し方は違う
- 相手に喜んでもらいたいという気もち

平成30年度第15回東京都高等学校体育連盟研究大会　　2019.2.16(土)

オリンピックに向けたグローバル人材の育成
～生徒たちに伝えたいおもてなしの心～

筑波大学客員教授　江上いずみ
http//www.globalmanner.jp

＜第1章＞　日本の文化「おもてなしの心」

◆　マナー大国日本の「おもてなしの心」とは何か

お持てなし　⇒　お（丁寧語）＋　持て成し

「もてなし」の語源　＝「心を持って行為を成す」の意味

＝　待遇　・　歓待

表 な し　　⇒　表裏なし

「表裏のない本心でお客様をお迎えしお世話する」の意味

＝　大切な人をお迎えするときの気持ち

＝相手に喜んでもらうために心を尽くすこと

＜第2章＞　東京2020大会におけるボランティア構想と実情

◆　ボランティア応募の状況　　（2018年12月21日締切）

- A；大会ボランティア　；　組織委員会が募集　80,000人　➡　186,101人
  B；都市ボランティア　；　都道府県が募集　　30,000人　➡　36,649人
- 内訳
  女性;63%、男性;37%
  日本国籍;63%　外国人;37%
  2012年ロンドン大会、2016年リオ大会では外国人ボランティアは数%
  ➡　食事・ユニフォーム、1日1,000円のプリペイドカードが交通費として支給されるが
  宿泊先は自分で確保することが大前提である
  組織委員会の説明；来日する外国人に対しては適切な情報提供を準備する
- 都市ボランティア応募用紙を都立高校2・3年生を対象に93,000枚を配布という問題
  ➡　都立高校経由での応募者は660名に留まる
- 次世代を担う若い世代が大会運営を体験できる場を検討する
  ➡　試験日程の配慮の働きかけなど、大学生がボランティア活動へ参加しやすい取組を検討
- 東京五輪を巡る2020年限定の祝日
  ➡　交通の混乱を避けるため、2020年限定で祝日を変更する

＜第3章＞ 第一印象を高める5原則

～生徒達に伝えたいおもてなしの心～

◆ 第一印象の大切さ

第一印象 ； 視覚 ➡ 3～5 秒で決まる

聴覚 ➡ 10～15 秒で決まる

◆ 第一印象を高める5原則

視 覚

(1)表情

「笑顔は一円もかからないおしゃれ」

視線(アイコンタクト)の大切さ

視覚障害者にとっての「笑顔」 ➡ 「笑声」での表現

(2)態度

立ち姿勢で決まる第一印象

(3)身だしなみの大切さ (CA における美容基準の徹底)

- 身だしなみとおしゃれの違い

「おしゃれ」は自分のため

「身だしなみ」は一緒にいる人に不快な思いをさせないため

- 100－1＝99ではない ➡ 100－1＝0 になってしまう

聴 覚

(4) 言葉遣い

「おもてなし」を表現する日本の敬語

- 相手を傷つけない言葉がけの配慮

(5)挨 拶

同時礼

分離礼

- 分離礼の大切さを理解する
- 「By Name の効果」➡ 親密度が増す

＜第4章＞　国際理解教育と異文化コミュニケーション

(1)　外国人を迎えるグローバルな挨拶＜ハグ＞と＜握手＞

◆　握手のルールとマナー　(国際理解教育としての握手のポイント)

＊　握手は右手だけでする。

両手の握手　＝「おねだりの握手」

＊　握手は相手の身体に手を触れる挨拶

＝　それをするかしないかを決めるのは上位者・年長者から

➡　日本のご挨拶のルール(目下➡目上の順)とはまったく逆と覚える

＊　欧米はレディファースト

＝　その握手をするかどうかを決めるのは女性側

➡　女性が手を出すまでは男性からは出さないのがルール

＊　来日した外国人に対しては「おもてなし」の気持ちを込めて、こちらから手を出してもよい

➡　こちらから手を出してはいけない人は2つ

・　国賓の方

・　高僧の方

◆　握手のルールの例外

＊　パラリンピックアスリート競技後の握手

＊　身体的理由で左手の握手をする場合

＊　車椅子の方への配慮と心づかい

(2) VIP ROOM や選手控室などに入室する際のノックの回数

プロトコール(世界標準マナー)で定められているノックの回数は 3 回以上

2 回のノック;空室を確認するノック

＝「中に誰もいないですよね」

➡　トイレ以外に用いるのは NG

3 回のノック;入室を確認するノック

＝「私が入室してもよろしいでしょうか」

➡　大学入試や就職試験など面接会場に入るときなども 3 回以上のノックで入室する

＜第5章＞ 外国人に日本の文化を伝えること

～グローバルな人材としての素養を身に付ける～

- 2013 年 12 月 4 日 ユネスコ無形文化遺産に指定された和食
- 世界の食事方法

  ➡箸を使うのは全世界の28％ （箸;28％、 カトラリー;28％、 手食;44％）
- 箸の使い方とタブーを外国人に伝える
- 宴席でのマナー

  大皿料理を取る際のマナー

  ➡ 「直箸」と「返し箸」、どちらが無作法？

＜第6章＞ おもてなしの心の表し方

◆「おもてなし」の表し方は相手によって変わる話

(1) 皇室フライトにおける特別教育

⇒ 初めて知る「おもてなしの心」の表し方が相手によって変わるときがあること

(2) ある区役所職員の対応

(3) 「対応」と「心づかい」「おもてなし」の違い

◆ 国籍・文化を越えたおもてなし教育

(1) 「Japanese Culture and OMOTENASHI」 講演の実際

(2) 宗教、習慣、しきたり、文化による「おもてなし」の違い

➡ ある人の一番が他の人の一番とは限らない

＜第7章＞ 言葉掛けとおもてなしの心

◆ ～「おもてなし大国」日本の真実～コミュニケーションによる「おもてなし」

～日本中で蔓延する 「少々お待ちください」を考える～

(1) レストランにて

(2) 街の店舗において

(3) 銀行・役所などの受付において

◆ 言葉がけは幸せを導く

～月刊『致知』 2005 年 12 月号 「縁を生かす」より～

研究発表　東京都高等学校体育連盟　研究部　第三分科会（普及・部活動の活性化）

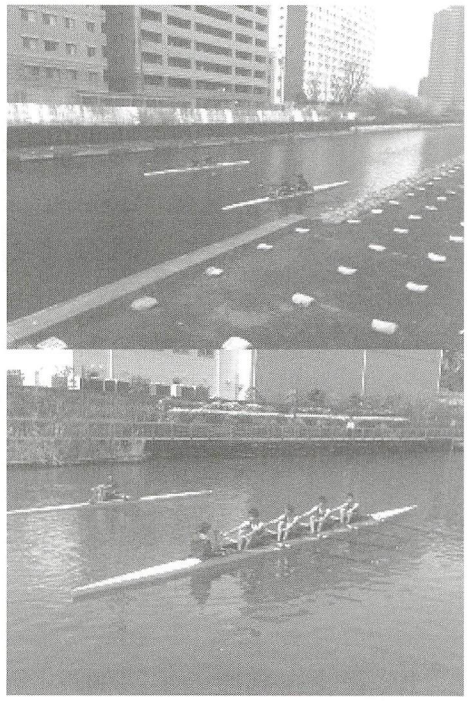
「東京都の発展と強化～国体からオリンピックへ～」

東京都高体連ボート専門部　東京都立日本橋高等学校　柳澤　左門

Ⅰ.はじめに

現在、国内においてボート競技の知名度は高いとは言い難い。大学同士の対抗戦は注目を集めることもあり「母校にあった」という先生方もいらっしゃるかもしれないが、一般的な知名度は低いと言える。ましてや、競技自体を見たことがあるという方はなおさらである。これは年齢が下がっていくにつれて顕著であり、全都を見渡してみても高校入学時に「ボート競技を知っている」という生徒は少ない。

その中で、どのように部員を獲得し競技の普及・発展に繋げていくのかという研究及び実践例を報告する。



［写真1］
写真上がダブル、写真下がシングル（奥）と
舵手＋漕手４人が乗るクォドルプル（手前）

Ⅱ.入部部員の内訳

（１）競技未経験者

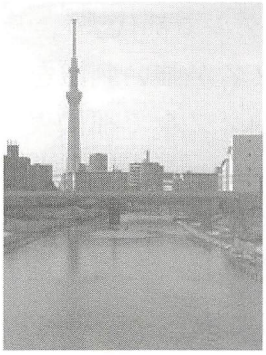
（２）競技経験者

…都内の中学校にボート部は存在しない。全て地域チームに所属していた選手。

（３）公益財団法人東京都体育協会アスリート発掘・育成事業出身者

…２０１３年（平成２５年）に東京で開催された第６８回国民体育大会において、活躍するジュニア選手の発掘・育成が目的で２０１０年（平成２２年）からスタートした。

競技人口の多い種目で頭角をあらわせなかった身体能力の高い選手を競技人口が少ない種目へ転向させることで育成する。中学三年生を認定し、高校入学時に種目選択ができるようにしている。(※)



東京都の高校生でボート競技を行っている者は上記のいずれかである。各校の状況にもよるが割合としては（１）が圧倒的であり、（２）及び（３）は併せても入部部員数の二割に満たない。

［写真2］都立高校の練習拠点「旧中川」の様子１

(※)［参考］公営財団法人東京都体育協会 HP（http://www.tokyo-sports.or.jp/）

Ⅲ. 東京都の現状について

（1）競技人口（平成３０年度）

加盟校部員総数　１３校/１６５名（男子１１０名、女子５５名）

〈全国平均４．９校/１０３．５人〉

（2）競技成績（平成３０年度）

・高等学校総合体育大会において、
　６種目中２種目で６位までに入賞。

・国民体育大会において、
　６種目中３種目で６位までに入賞。総合２位。

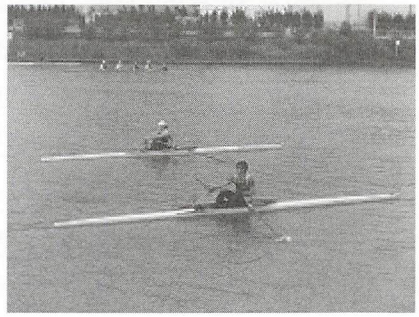
[写真 3]都立高校の練習拠点「旧中川」の様子 2

（3）都の競技施設

なし

・各種大会は埼玉県にある戸田漕艇場にて開催。
　（専門部のみで運営は不可能）

・練習場所は、
　大学の付属高校は大学の寮がある戸田漕艇場へ。
　都立高校は三区（墨田江戸川江東）にまたがる
　「旧中川」で練習。



[写真 4]戸田漕艇場の様子

加盟校、総部員数共に全国平均よりも多いが、都道府県として競技施設を保有していないのは東京都だけである。

Ⅳ. 普及・発展の実践例

（1）「東京都体育協会アスリート発掘・育成事業」との連携から生まれる好循環

東京都体育協会のアスリート発掘・育成事業（以下、「トップアスリート」）の存在は大きく、高校入学と同時に競技を始めた選手であっても三年間でその多くが全国大会に出場している。またその活躍は国内だけに留まらず、過去８年で２名の選手が１９歳以下の日本代表となっている。

トップアスリート事業の中でもボート競技は高成績を上げており、「トップアスリート認定→ボート競技ができる高校へ」という構造が成り立ちつつある。（毎年３～４人）

さらに、好循環の一助となっている点がその存在による周囲への影響である。

本校での例になるが、精力的に練習をしている競技未経験者、競技経験者がいる代の下にトップアスリート選手が入部してきた。上級生にとっては刺激になったようで、最終的にその年度は「未経験者」、「経験者」、一つ下の「トップアスリート」の３人が部の中心となり部を盛り上げ、部として最高成績を上げる年となった（ダブルとシングルで都代表）。

また、女子２名のトップアスリートが入部してきた年は同級生の男子２名が強い刺激を受け、積極的に自主練習を実施するようになり、最終的に男女それぞれのダブルで都代表並びに関東代表となった。

これは都全体でもいえることで、学校を超えた混合編成が認められる国民体育大会のような大会でも「未経験者」、「経験者」、「トップアスリート」の３種類の入部経緯を持つ選手が互いに刺激し合って、声を掛け合う年は好成績を上げている。

(2)育成強化練習会の実施による「TEAM TOKYO」の意識

オフシーズンとなる１２月から２月まで月１～２度合同の練習会を実施している。そこでは東京都ボート協会と連携を図り、成年を含めた強化本部長が指導に加わって下さる。

次年度の国体選抜選手選考会の色合いもあるが、それ以上に競技経験を持つ指導者がいない学校の生徒への指導や普段の練習場所が異なる都立と私立の交流及び指導者間の意見交換など得られるものは多い。

[写真 5]今年度国体選手団

これらのことから、どの加盟校であっても一定の質が保たれた練習や漕ぎのポイントが浸透している。

(3)中学生地域チームへの出前指導、区民大会のスタッフ派遣

年に数回、中学生の練習を高校生が指導する機会がある。また、地域チームが開催する区民イベントである大会にも高校生がスタッフとして参加をして運営を手伝うことがある。これらの活動を通じて、中学生は上級学校の先輩の雰囲気を知ることができ普及活動に一役かっている。地域住民の方にも学校部活動としてボート競技を知っていただく良い機会となっている。これら複数の活動等から、地域に愛される部活動づくりを目指している。

以上、３つを実践例として挙げたが研究部として大切にしている思いは「強くなること」と「応援されること」の二点である。「結果が出なければ、中学生は競技選択をしてくれない」、「結果を出しても人として魅力がなければ、中学生は競技選択をしてくれない」これが競技の普及と発展に繋がっていくと感じている。

Ⅴ.おわりに

都における高等学校部活動ボート選手の大半は未経験者である。Ⅳ-(1)でも述べたが、「未経験者」、「経験者」、「トップアスリート」がバランスよく存在する年度は非常に勢いのある年になる。そして、そこで示した「強さ」が宣伝効果となり次の代に繋がっていく。

現在、東京国体の時に高校三年生として活躍した選手が大学卒業後も競技を継続して東京オリンピックを目指している。また、東京国体時に中学生で地元国体のボート競技を見た選手が大学でも活躍をしている。地元国体の成績向上を目指して始まった事業が今なお、東京都競技成果の屋台骨を支えてくれている。

しかし、部活動としてのボート競技運営が困難を極めることも事実である。自前のコースがない、大会運営のノウハウはあっても実働人数が足りない(水上であるため要モーターボート運転免許、審判資格など)。またトップアスリート選手の進学先といった課題も山積である。

それでも本研究発表をまとめる作業を通じ、オリンピックを目指す今までの選手や高校総体での活躍を目指す今の選手、無限の可能性を持つこれからのまだ見ぬ選手に思いを馳せることができ、専門部としての強さや魅力を個人的にも振り返るよい機会となった。

最後になりますが、本研究を進めるにあたり専門部の多くの先生方からアドバイスいただくと共に、大変なご協力もいただきました。ここに感謝の意を表します。

以上

＜課題研究～滋賀大会に向けた取り組み＞

「運動部活動が育むものとは何か　～運動部活動の存在意義についての調査～」

都立清瀬高等学校　鞠子　智秋

【課題研究に取り組むまでの経緯と趣旨】

現在、学校の部活動をめぐってさまざまな課題が指摘され、見直しが迫られています。平成３０（２０１８）年３月、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定しました。「義務教育である中学校段階の運動部活動を主な対象」とされていますが、「高等学校段階の運動部活動についても本ガイドラインを原則として適用し、速やかに改革に取り組む」と明記されています。正に、待ったなしで部活動改革に本腰を入れて取り組むべき段階にきているといえます。

東京都高体連研究部は、２０２０東京オリンピック・パラリンピックを控えて注目度が上がるこの時期に、部活動の良さを広く訴えることが必要であり、東京だからこそできることがあるのではないかと考え、課題研究テーマの設定において、以下のことを踏まえました。

平成２９年度の全国高等学校体育連盟主催の研究大会（島根大会）では、「２０２０に向けて　高体連研究部の新たな使命」と題してシンポジウムを実施し、日本における部活動は国際的に見ても独自の文化として拡大・肥大していることが示されました。そして、平成３０年度の研究大会（山梨大会）では、「高体連研究部の新たな使命Ⅱ　～安全で安心な部活動に向けた『みえる化』と『できる化』～」と題して、千葉県からの課題研究発表がありました。そこでは、名古屋大学准教授内田良氏をお迎えし、「部活動の日常を『見える化』する～持続可能なあり方を求めて～」という講演とディスカッションも実施されました。内田氏は「犠牲の上に成り立つ競技は持続可能ではない。内在しているリスクを示し（見える化）、改善（できる化）できれば、皆ハッピー。」ということを訴え、柔道や組体操での事例を踏まえて講演されました。

上記の背景を含み、研究内容として東京都の部活動が今後も持続可能で、発展していくための「見える化」に着手しようと考えました。この研究が「部活動は有益である。」というエビデンスを示す一助となることを願っています。

東京都高体連各専門部の皆さま方には、東京の高校生の実態を知り、運動部活動が育んでいることや今後の課題等を明らかにする調査に、ご協力を頂戴したいと考えます。皆さまのお力をお借りして、この課題研究を成功に導いて参りたいと思います。そして、可能であれば東京を出発点にして、全国的な調査へと波及していくことに繋がることを期待して全力を注いでいきます。

何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【東京都課題研究概要】※パワーポイントを基にご説明します。メモ欄としてご使用ください。

【アンケート調査　質問項目（仮案）例】

【会場の皆さんとの質疑応答】

【質問項目へのアイディア提供を！】

ご協力よろしくお願いいたします。

第53回(滋賀)全国高等学校体育連盟研究大会　課題研究計画書:2018.11.30

ふりがな	しおだのぶたか	所属	東京都高体連研究部
申請者氏名	塩田　伸隆		
申請者連絡先	〒156-0045 東京都世田谷区桜上水4－3－5　　都立松原高等学校内 東京都高体連研究部　委員長　塩田伸隆 電話　03－3303－5381　Fax　03－3304－3062 塩田　伸隆 <Nobutaka_Shioda@education.metro.tokyo.jp>		
研究テーマ	運動部活動が育むものとは何か～運動部活動の存在意義についての調査～		
どのような課題に対応した研究であるかkey word　の形で示すこと			
key word	大規模データ　部活動意義　健全育成の実態　見える化　将来的なできる化		

研究目的（何を、どこまで明らかにしようとするのか、焦点をしぼり、具体的に記入すること。）

東京都内の高等学校にアンケート調査を実施する。（できれば、都立、私立どちらも対象としたい）
東京都の運動部活動が運動技術の他に、健全育成の観点において育んでいるものが一体何であるのか、実態を調査する。
調査対象は、指導者（部活顧問）、運動部活動に加入する生徒、文化系部活動に加入する生徒、無所属の生徒等、東京の実態を把握できるような調査対象設定をする。
健全育成の観点においては、千葉県が先行研究をした『運動部活動と社会人育成』～社会人基礎力をはじめとする社会のニーズと運動部活動の方向性～で取り上げた（旧「社会人基礎力」（経済産業省）現「人生100年時代の社会人基礎力」2017年度改訂）研究を基にしながら、質問項目を作成する。

この調査研究において明らかにしたいこと　～
運動部活動を通して健全育成がどのように行われ、社会に出て通用する人材を輩出しているのかを把握すること。それによって、東京都の運動部活動が育んでいる教育的価値や財産を明らかにする。一方で、育みきれていない課題となる要素の把握など、今後の運動部活動の存在意義を問い直す機会としたい。

研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画と方法について研究経費との関連も含めて具体的に記入すること。）

2018.12月　質問内容について千葉県（先行研究）、有識者からの情報交換や収集
2019. 1月　質問項目の叩き台作成
　　2月　東京都研究大会での中間発表、会場内でのアンケート項目についての意見集約
　　3月　アンケート項目の決定・膨大なアンケート実施となるので、アンケート集計他依頼できる業者の選定
　　4月　アンケート実施・回収
　　5月　データ集計と解析（業者とのやりとり）
　　6月　東京都研究部・有識者も交えたアンケート結果の考察

◇研究経費は、東京都高体連の費用を活用する。具体的にいくら計上するかは、現段階では明記できない。大規模なアンケート調査と集計作業を業者に依頼することなどを踏まえると、調査研究作業と同時に業者選定も進めて行く必要がある。
アンケート用紙代、印刷代、郵送費、業者依頼費用、会議日、会議交通費等の支出が見込まれる。

研究の特色

・東京都の部活動所属人数の多いことを有効活用をしたこと

・「部活動意義」を見える化、「健全育成の実態」を見える化したこと

・今後の指標となる考察や知見を得ることで『できる化』 の波及効果（全国的な調査の拡大）を期待したこと

東京都高等学校体育連盟「研究部」規約

第一章　名称及び事務局

第１条　本研究部（以下「本部」という）は、東京都高等学校体育連盟研究部と称する。
第２条　本部の事務局は、会長指定の高等学校におく。

第二章　目　　的

第３条　本部は、東京都高等学校体育連盟が教育活動の一環として実施する体育・スポーツ活動に関する調査並びに研究を行い、その発展に寄与することを目的とする。

第三章　事　　業

第４条　本部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
　１）　競技力向上、普及振興、安全対策に関する調査研究
　２）　研究会並びに講習会の開催
　３）　その他本部の目的達成に必要な事項

第四章　組織及び委員

第５条　本部は、各競技専門部及び定通制部から選出された委員を以て組織する。
　委員の任期は、２カ年とし、再任は妨げない。

第五章　役　　員

第６条　本部に下記の役員をおく。
　１）　部　　長　　１名
　２）　副　部　長　　２名　（１名は委員長及び本連盟の常任理事を兼ねる）
　３）　常 任 委 員　１０名
　４）　監　　事　　２名
第７条　役員は、委員会において選出する。
第８条　役員の任務
　１）　部　　長　部長は、本部を代表し、会務を統括する。
　２）　副 部 長　副部長は、部長を補佐し、部長事故ある時はその職務を代行する。
　　委員長を兼ねる副部長は、会務を執行する。
　３）　常任委員　常任委員は、会務の企画、運営にあたる。
　４）　監　　事　監事は、本部の会計を監査する。
第９条　役員の任期は、２カ年とし、再任は妨げない。補充によって就任した場合は、前任者の残任期間とする。

第六章　会　　議

第 10 条　委員会は、委員を以て構成し、必要事項を審議決定する。
第 11 条　常任委員会は、役員を以て構成する。常任委員会は、部長が招集し、必要事項を審議する。なお、緊急事項が生じた場合は、常任委員会で審議決定し執行する。
　執行内容については、委員会に報告しなければならない。

第七章　会　　計

第 12 条　本部の経費は、本連盟の一般会計・研究部費、その他を以てこれにあてる。
第 13 条　本部の会計は、毎年４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。

第八章　附　　則

第 14 条　本規約は、本連盟常任理事会の議決を得て変更することができる。
第 15 条　本規約は、平成１３年１１月１６日より施行する。
　（経過）　1. 平成１９年　４月　２６日　第一次改定
　　2. 平成２１年　４月　１８日　第二次改定

役員の選出に関する細則

1)部長は、都内高等学校長より選出する。
2)副部長２名（１名は委員長及び常任理事を兼ねる）は、委員の互選により選出する。
3)常任委員は、委員の互選により１０名を選出する。
　（各分科会代表３名、団体種目系３名、個人種目系２名、武道系２名）
4)委員は、各専門部・定通制部の互選とする。（各専門部より若干名、定通制部より１名）
5)監事は、委員の互選とする。

東京都高等学校体育連盟

＜研究部＞　組織と名簿　　平成30年度　*2018年*

役職名	氏　名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電　話	ＦＡＸ	研究部役職	
部長	庄司一也			都晴海総合	104-0053	中央区晴海1-2-1	03-3531-5021	03-3531-5024	都高体連副会長	
副部長（委員長）	塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	都高体連常任理事	理科(化学)
副部長（副委員長）	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
常任委員	黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994	第1分科会チーフ	保健体育
〃	堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
〃	柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	保健体育
〃	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491		保健体育
〃	奥　正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522		地歴
〃	高倉千草	バレーボール女子	団体	都立第四商業	176-0021	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040		保健体育
〃	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
〃	阿部一臣	バドミントン	個人	都立東村山	189-0011	東村山市恩多町4-26-1	042-392-1235	042-392-7275		英語
〃	工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-6385	03-3963-2430		数学
〃	秋月　隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854		理科(化学)
会計	新井理仁	ソフトボール	団体	都立第一商業	150-0035	渋谷区鉢山町8－1	03-3463-2606	03-3463-2050		英語
監事	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278		社会
〃	倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303		国語

	氏　名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電　話	ＦＡＸ	研究部役職	教　科
第一分科会（競技力向上）競技力	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	常任委員	保健体育
	曽根原龍大	陸上競技男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		数学
	黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994	第1分科会チーフ	保健体育
	笹川浩司	陸上競技女子	個人	都立板橋	173-0035	板橋区大谷口1-54-1	03-3973-3150	03-3959-6591		保健体育
	松永航平	バスケットボール女子	団体	東京電機大学高	184-8555	小金井市梶野町4-8-1	0422-37-6441	0422-37-6821		国語
	杉浦翔太	ボクシング	武道	都立荒川工業	116-0003	荒川区南千住6-42-1	03-3802-1178	03-3802-8218		工業(電気)
	高倉千草	バレーボール女子	団体	都立第四商業	176-0021	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040	常任委員	保健体育
	阿部一臣	バドミントン	個人	都立東村山	189-0011	東村山市恩多町4-26-1	042-392-1235	042-392-7275	常任委員	英語
	中島弘貴	テニス	個人	富士見	176-0023	練馬区中村北4-8-26	03-3999-2136	03-3999-2129		社会(公民)
	古志野潤哉	体操男子	個人	成城	162-8670	新宿区原町3-87	03-3341-6141	03-3341-3165		保健体育
	新井理仁	ソフトボール	団体	都立第一商業	150-0035	渋谷区鉢山町8－1	03-3463-2606	03-3463-2050	会計	英語
	奥　正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522	常任委員	地歴
	田草川直希	ラグビー	団体	都立墨田工業	135-0004	江東区森下5-1-7	03-3631-4928	03-3846-6638		数学
	田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906		保健体育
	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278	監事	社会
	須郷一史	ウェイトリフティング	個人	千代田区立九段中等教育学校	102-0073	千代田区九段北2-2-1	03-3263-7190	03-3288-3499		地歴
17名	佐藤貴文	水泳	個人	都立足立	120-0011	足立区中央本町1-3-9	03-3889-2204	03-3880-6757		保健体育

	氏　名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電　話	ＦＡＸ		教　科
第二分科会（健康と安全）安全	此川しずか	アーチェリー	武道	慶應義塾女子高等学校	108-0073	港区三田2-17-23	03-5427-1674	03-5427-1675		家庭
	滝田裕幸	スキー	個人	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		英語
	堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987	第2分科会チーフ	英語
	田中玄太	卓球男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991		情報
	倉田あゆみ	卓球女子	個人	都立若葉総合	206-0822	稲城市坂浜1434-3	042-350-0300	042-350-0303	監事	国語
	高田丈裕	レスリング	武道	日本工業大学駒場	153-8508	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2165		保健体育
	安海友貴	フェンシング	武道	都立王子総合	114-0023	北区滝野川3-54-7	03-3576-0602	03-3576-0615		保健体育
	湯川　泉	空手道	武道	都立六本木	106-0032	港区六本木6－16－36	03-5411-7327	03-5411-7367		保健体育
10名	塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	委員長	理科(化学)
	六車健吉	ライフル射撃	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		芸術（美術）

	氏　名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電　話	ＦＡＸ		教　科
第三分科会（部活動の活性化）普及	平野真央	体操女子	個人	大妻女子	102-8357	千代田区三番町12	03-5275-6057	03-5275-6093		保健体育
	久保田直実	バスケットボール男子	団体	都立両国	130-0022	墨田区江東橋1-7-14	03-3631-1815	03-3846-6682		保健体育
	稲井祥紀	ソフトテニス男子	個人	都立豊多摩	166-0016	杉並区成田西2-6-18	03-3393-1331	03-3398-3746		数学
	千野秀章	ソフトテニス女子	個人	豊南	171-0042	豊島区高松3-6-7	03-3959-5511	03-3959-5516		国語
	徳田泰宜	バレーボール男子	団体	日本大学櫻丘	156-0045	世田谷区桜上水3-24-22	03-5317-9300	03-3304-4328		保健体育
	伊賀章子	スケート	個人	法政大学	181-0002	三鷹市牟礼4-3-1	0422-79-6230	0422-79-6261		英語
	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491	常任委員	保健体育
	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	副委員長	保健体育
	秋月　隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854	常任委員	理科(化学)
	中村豪介	アメリカンフットボール	団体	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		保健体育
	君塚善宏	柔道	武道	巣鴨	170-0012	豊島区上池袋1-21-1	03-3918-5311	03-3918-5305		保健体育
	児玉　勝	剣道	武道	都立武蔵丘	165-0031	中野区上鷺宮2-14-1	03-3999-9308	03-3926-9012		保健体育
	児玉朋隼	相撲	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		英語
	田中鶏郎	なぎなた	武道	文化学園大学杉並	166-0004	杉並区阿佐谷南3-48-16	03-3392-6636	03-3391-8272		数学
	柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396	第3分科会チーフ	国語
	野中　純	ホッケー	団体	早稲田高等学院	177-0044	練馬区上石神井3-31-1	03-5991-4151	03-3928-4110		数学
20名	櫻井幹久	登山	団体	安田学園	130-8615	墨田区横網2-2-25	03-3624-2666	03-3624-2668		地歴
	工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-6385	03-3963-2430	常任委員	数学
	眞鍋健治	少林寺拳法	武道	桜丘中学・高等学校	114-8554	北区滝野川1-51-12	03-3910-6161	03-3949-0677		保健体育
	杉村暁美	チアリーディング	団体	駒澤大学高等学校	158-8577	世田谷区上用賀1-17-12	03-3700-6131	03-3707-5689		公民

平成31年度　東京都高等学校体育連盟　研究部　調査用紙

専門部名

◎平成31年度・平成32年度の2年任期を原則とし、任期の継続をお願いします。
なお、研究部員は、専門部から複数名出していただくことも可能です。
※印欄の内容は、委員名簿には掲載しませんが、連絡に使用させていただきたいので、是非ご記入下さい。
※E－mail での連絡体制にご協力ください。

研究部員	よみがな			携帯電話番号 ※		
	氏　名			メールアドレス ※		
	勤務先学校名			E－mail アドレス ※		
	勤務先〒		勤務先住所		(担当教科)	
	勤務先電話番号			勤務先Fax		
	所属希望分科会	第一希望に◎ 第二希望に○	・第1分科会(競技力向上)　・第2分科会(健康安全)　・第3分科会(部活動活性化)			
研究活動	都高体連研究活動(研究発表など)に協力いただいた専門部	ﾌｪﾝｼﾝｸﾞ、空手道、剣道、柔道、ﾎﾞｸｼﾝｸﾞ、少林寺拳法、弓道、相撲、サッカー、男子ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、男子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ、女子ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ、ラグビー、ｱﾒﾘｶﾝﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ、ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ、、ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ、ﾎｯｹｰ　、軟式野球 テニス、アーチェリー、陸上競技、水泳、ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ、スケート、体操男子、ボート				
	平成31年度以降に、ご協力をお願いしたい専門部	バレーボール女子、スキー、ウェイトリフティング、自転車競技、卓球女子、レスリング、ライフル射撃、体操女子、ソフトテニス男子ソフトテニス女子、なぎなた、、登山				
	ご協力(専門部として研究発表)の予定	平成31年度　平成32年度　平成33年度　※○印を				

専門部報告	(競技力向上の取組み)
	(健康安全面での取組み)
	(部活動活性化＝普及活動での取組み)
	(専門部として取り組んでいる研究)

提出期限　平成31年 4月 9日(火)　　平成31年度 東京都高体連研究部委員会　平成31年 4月16日(火)

提出先　研究部委員長　塩田 伸隆　都立松原高校　**090-2474-0891**
E－mail　Nobutaka_Shioda@education.metro.tokyo.jp

◇この調査内容は、原則、E-mailで、ご報告願います。
※この書式をデータとして必要な場合、東京都高体連ホームページからダウンロードできます。
または、塩田宛にメールでご連絡下さい。添付ファイルとしてお送りします。